

I 府教育庁へのインタビュー調査

インタビュー結果まとめ

府教育庁へのインタビュー調査から課題・検討点をまとめました。

令和8年1月16日(金) 実施。

運用メディアと更新頻度についての課題

1. 情報発信の現状と戦略の不在

広報手法の多様化: これまではHP、リーフレット等中心だったが、さらにSNS活用もスタート。現在はどの学校も手探りの状態。

戦略の欠如: メディアごとの特性分析や、ターゲットに応じた使い分けといった「情報発信の戦略」にかかるノウハウがない。

属人的な運用: メディアの活用が担当者の得意・不得意に依存してしまう。

2. 状況や環境の多様性

自己分析の不足: そもそも「自校の魅力は何か」を定義できていないケースが見られる。

マーケティング力の不足: 「学校の魅力発信」がどう影響しているのか分析したり、戦略的に届けたりするノウハウがない。

校種・状況による温度差: 学校の置かれている状況や環境によって、広報に対するモチベーションは全く異なる。

インタビュー結果まとめ

府教育庁へのインタビュー調査から課題・検討点をまとめました。

令和8年1月16日(金) 実施。

運用メディアと更新頻度についての課題

3. 業務分担と体制構築

業務負担とのバランス: リフレット作成やHP、SNS運営、対面による説明など、各々異なったスキルが必要であり、業務負担とのバランスをとることが困難。

マインドセットの重要性: 現場のモチベーションを高めるためには、業務負担を軽減するとともに、対面でのコミュニケーションを通じて熱意を伝えるプロセスが必要。

4. リスク管理と情報モラル

投稿リスク: 公的な情報発信としての確実性を担保することが最優先（炎上リスクや権利侵害など）。

アップデートへの対応: 日々進歩するサービスへの適応や、投稿内容の質や流行等に関するノウハウやスキルがない。

インタビュー結果まとめ

府教育庁へのインタビュー調査から課題・検討点をまとめました。

令和8年1月16日(金) 実施。

更新体制とフローについての課題

管理・チェック体制の現状

各学校の内部体制:

- 現場レベルでのチェック体制は比較的整っている。
- 即効性（スピード感）を求められる短い投稿内容であっても、精査した上で発信する仕組みが機能している。

設置者（大阪府）側の状況:

- 府として、各高校のアカウントや投稿内容を個別にモニタリングする体制には至っていない。
- 運用およびリスク管理の責任は、各学校の裁量に委ねられている。

インタビュー結果まとめ

府教育庁へのインタビュー調査から課題・検討点をまとめました。

令和8年1月16日(金) 実施。

ネタ探しと運用についての課題

●ネタ探しの実態と「属人性」

個人のセンスに依存: 日常の風景を魅力的に発信できる学校もあるが、担当者のセンスや熱量に左右されているのが現状。

収集体制の差異: 校長自らが動くケースもあれば、担当教員が自身のネットワークを駆使して校内のイベントやトピックを拾い上げるケースもある。

客観的な視点: 学校内では当然の出来事や風景が他者からは魅力的に映るという点でネタ探しをすることが難しい。

●組織体制と運用のルール

組織的な分担: 特定の広報担当だけでなく、首席や情報担当など「SNSを使った情報が発信できるメンバー」が中心となって組織的に動いている場合が多い。

校務端末の使用: 全国的に、校務用のデバイスを活用して撮影等をする方針が示されたが、その端末は十分にそろっていない。

●権利への配慮

許諾の管理: トラブル防止のため、事前にアンケート等でSNSへの掲載可否を確認し、許可を得た生徒のみを発信するなどの配慮を行っている。

インタビュー結果まとめ

府教育庁へのインタビュー調査から課題・検討点をまとめました。

令和8年1月16日(金) 実施。

学校訪問や説明会で使用するスライドやチラシについての課題

●PDCAと改善の動き

二極化する現状: 前例踏襲が多い一方で、入学者の声をアンケート等で吸い上げ、スライド構成や内容を毎年改善（PDCA）する学校も増えつつある。

校長のリーダーシップ: 広報の質は校長の意向に強く依存する。校長自らが「学校の魅力（ストーリー）」を語る学校は発信力が強い。

若手教員の台頭: 意欲的な若手教員が連携して新しい見せ方に挑戦するケースも見られる。

●組織内の意識乖離と課題

校務分掌による分担: 広報担当としての役割が充てられており、学校全体で広報を行うという意識は弱い傾向にある。

分析ノウハウの不足: 「やらなければならない」と感じつつも、何をどう分析し、どう改善していいか分からない。

●デザイン・キャッチコピー制作における外部知見・ツールの活用

専門ツールの活用状況:

- デザインやコピーに特化した外部知見の導入はまだ限定的（金銭的課題を含む）。
- 「広報（魅力発信）の強化」と、「ブランド力（魅力づくり）の強化」は両輪であり、どちらから教科していくかといった判断は学校により異なる。

生成AIの活用と受容性:

- 活用状況:** 事務作業にAIを使っている教員はいるが、「広報クリエイティブに活かす」という視点を持つ人はまだ少ない。

インタビュー結果まとめ

府教育庁へのインタビュー調査から課題・検討点をまとめました。

令和8年1月16日(金) 実施。

データ活用とリスク管理についての課題

1. データ活用と数値分析の現状

分析の仕組み: 現時点では、インプレッションやクリック数などの数値を組織的に収集・分析し、次回の施策（PDCA）に反映させる仕組みは構築されていない。

課題: 「発信すること」が優先されており、その効果を定量的に測定して改善につなげるプロセスが今後の検討事項となっている。

2. 緊急時の対応（炎上・誤情報）とエスカレーション

報告ライン: 問題発生時は、教育庁へ報告が入る仕組みは存在する。

マニュアルの不在: 炎上対策に特化した具体的な文書（マニュアル）は整備されていない。

対応方針: 明文化された指針ではなく、過去の類似事例に基づいた「感覚的・慣例的」な対応に留まっている。

3. セキュリティとアカウント管理

乗っ取り対策: アカウントの不正利用を防ぐための具体的な対策（二段階認証の徹底やパスワード管理など）はない。

正確性の向上: ビジネスプロフィールの設定などを適切に行い、公式情報の正確性と信頼性を担保する仕組みづくりが重要。

-
- II 高校へのインタビュー調査（9校）
 - III 中学校へのインタビュー調査（3校）



別紙3参照

※実施時期は、令和8年1月～2月